

脳卒中のリハビリテーション処方

Rehabilitation prescription for stroke

2000年に回復期リハビリテーション病棟の制度が創設され、脳卒中回復期における医学的リハビリテーションは少なくとも量的には整備されてきました。しかしその内容は千差万別であり、また急性期と生活期のリハビリテーションには課題が山積しています。

本特集は、脳卒中のリハビリテーション処方に焦点を当て、リハビリテーション科専門医の立場から、処方箋（依頼箋）にどのようなことを記載して情報共有し、リハビリテーション計画を立案・推進すべきなのかを考えることを目的に企画しました。

急性期① 地域急性期病院における取り組み 瀬田拓氏 107

急性期リハビリテーションの必要性は脳卒中診療にかかわる医療者の共通認識となり、現在は機能予後をさらに改善させるための新たな役割を模索する段階にある。確実に遅滞なく訓練を開始できるシステムをその施設の実情に合わせて構築することが大切である。回復期や生活期を見据えた急性期リハビリテーションの実施は容易ではないが、その達成に向けた取り組みも紹介されている。

急性期② 脳卒中発症早期のリハビリテーション処方 幸田剣氏 113

院内すべてのスタッフが安静臥床は確実に身体機能を低下させるリスクであると認識する必要がある。そのうえで、急性期リハビリテーションは廃用を予防するために行うのではなく、患者をよくするために行うものであり、その質が問われている。正確な診断と評価のうえで処方を行い、可能な限りの高負荷・長時間のリハビリテーションを提供するためのプログラムと処方の実際を示していただいた。

回復期①運動機能障害主体

回復期リハビリテーションにおけるリハビリテーション処方のありかた 補永薫氏 119

回復期では運動量の増大とともに循環動態の変動や生活環境の変化、患者の意識変容による活動性の向上に伴うリスクの増大が認められる。リハビリテーション処方箋は、単純な訓練指示書としての役割だけでなく、一つのコミュニケーションツールとして医療チームの共通認識を成り立たせる役割も果たせる必要がある。International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps (IDIDH) や International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) の概念を取り入れた処方の具体例が示され、参考になる。

回復期②高次脳機能障害主体（失語症含む）

脳卒中回復期における高次脳機能障害のリハビリテーション処方 原寛美氏 125

回復期の高次脳機能障害患者に対しては、的確な診断・評価と認知リハビリテーションの実施が必要

である。また、回復期の期間においては復職・就労の目標達成が困難なことが多く、生活期における職業リハビリテーションとの連携など、退院後の計画を提示していく必要もある。著者の豊富な経験に基づいた認知リハビリテーションのプログラム例やエビデンスを具体的に紹介していただいた。

生活期①自立訓練（機能訓練）事業

障害者福祉制度におけるリハビリテーション処方 杉原勝宣氏…………… 131

自立訓練（機能訓練）事業は、介護保険対象外の若年者や社会復帰を目標として長期のトレーニングが必要な者が利用可能な施設（事業）である。全国調査の結果では、何らかの形でリハビリテーション医の関与がある施設は50%あったが、リハビリテーション処方が必要と考える施設は27%にすぎなかったという。外部から信頼され利用してもらえる施設となるには課題がある。

生活期②外来リハビリテーション

生活期における外来リハビリテーション処方 佐久川明美氏…………… 139

外来での医学的リハビリテーションを実施しない医療機関がみられるようになり、著者の回復期からの退院患者よりも他院からの紹介や外来初診患者が増加しているという。患者の機能評価に基づいた改善可能性を見出し、生活向上や生活再建支援に必要な行動変化につながる目標志向的なリハビリテーション処方が必要であり、具体的な目標と達成感が決め手となる。

生活期③地域・在宅リハビリテーション

地域・在宅におけるリハビリテーション処方 高岡徹氏…………… 145

横浜市の在宅リハビリテーション・システムと具体的なケースに対する処方例が紹介されている。屋外歩行や公共交通機関の利用、家事動作、日常生活動作（activities of daily living; ADL）などに関して、実際場面での環境調整を含めたきめ細かい指導が有用であった。在宅においては、「参加」の獲得・拡大を目標として、活動レベルの向上や環境因子の整備と最適化を図ることが重要である。

お知らせ	一般社団法人大阪府臨床工学技士会 第9回呼吸療法セミナー…………… 117
	アジア小児ボバース講習会講師会議（ABPIA）公認
	2018年度近代ボバース概念小児領域8週間講習会…………… 168